

環境エネルギー

無限の可能性を 秘める新産業

東日本大震災以来、脚光を浴びることとなったエネルギー問題。国の産業を支えるエネルギー（電力）は、福島第1原子力発電所の事故を引き

金に電力不足を招き、企業や一般家庭にとっても今後の大きな課題となった。環境エネルギー分野で即戦力として期待されているのが「太陽光発電システム」。すでに多くのメーカーから製品が発売され

ているが、震災後その注目度は一気に上昇した。

国や県は節電やCO₂削減などのために建物を改修する企業に上限付きの補助金を出して進めており、これを活用して太陽光発電などを導入する企業は増えている。また、太陽光発電に関しては、余剰電力の固定価格買取制度もあり、一般住宅への設置も増えている。

効率的に発電する独立型太陽光発電

仙台市内に本社を置く株式会社小野寿光社長が力を入れているのは、太陽光発電と風力発電を組み合わせて内蔵型の高性能バッテリーに蓄電し、LED（発光ダイオード）照明の常夜灯（街灯）などに使用する独立自家発電複合機能街路灯のハイブリッドスマートデバイス、「マップチ・ハイブリッドポール」。

同社は1966年の創業以来、建物の給排水や空調などの設備工事を主体に、建物の維持・保全にも力を入れ、10年前に株式会社HIISO（ハイソ）を設立。持続可能な社会を目指して、省エネやエネルギーの再生などにも積極的に取り組んでいる。ハイブリッドポールは韓国企業との共同開発で実現したもので、太陽

光と風力で毎時1260Whを発電し、毎時200アンペアの蓄電が可能で、60Wh相当のLED照明を80時間点灯できる電力量に相当する。外付けの蓄電池を増設すれば400アンペアまで可能。また、街灯の他にオプションで防災無線や防犯カメラ、無線ランなどの取り付けも可能で、価格は1台190万円。小野社長は「使う場所や目的に応じて設計が可能ですので、問い合わせは増えています」という。太陽光発電は必要な場所でも効率的に発電できる強みがあり、学校や公園、マンションの共有部分など、防災への活用には最適だという。すでに名取市の市役所に1台、東松島市の仮設住宅に4台導

入されており、今後も東松島市と連携していく考え。「再生可能エネルギーは中小企業にとっても大きなチャンス。行政と一緒に、今までは違うまちづくりに参画していきたい。年間生産本数を増やし、100万円を切る価格にした」と話している。



1台で仮設事務所の照明とPC10台程度賄える

仙台経済圏300万人の情報誌 E-mail senkey@senkey.co.jp 590円
URL <http://www.senkey.co.jp>

仙台経済界

2012 1-2

2012 復興 元年

躍動する仙台へ

1000円増える自転車 ルールの再確認へ
10000字部・仙台を襲った地震の爪跡
twan)人々の心を癒したあま〜い菓子
シニア向け仙台自遊人クラブ好評!